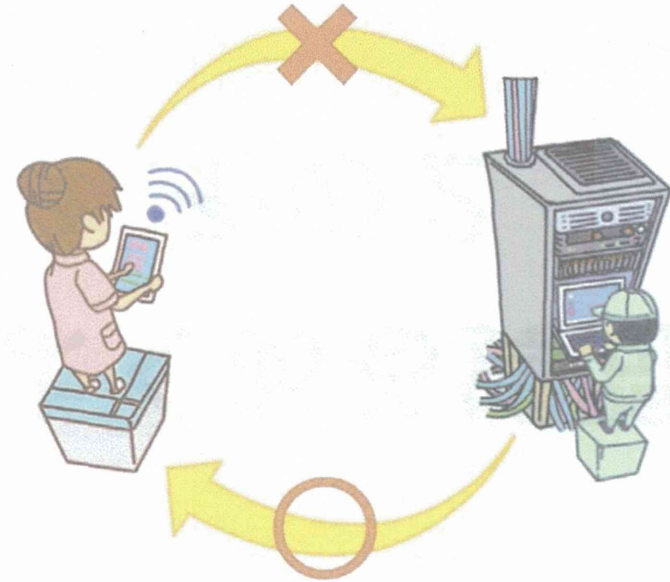


# 電子カルテとは全く連携できないのか？

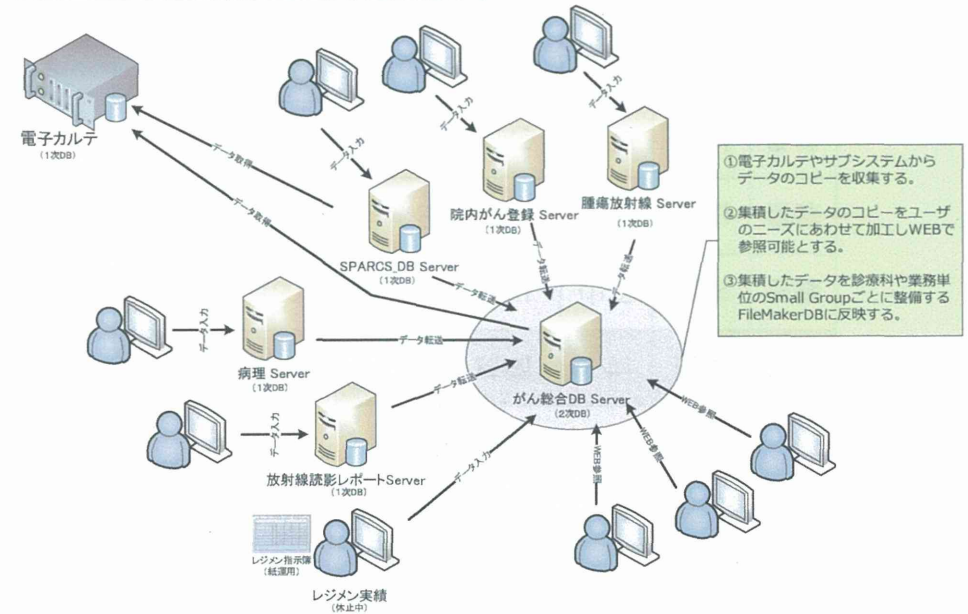
## 電子カルテへのデータ書込み



## 電子カルテからのデータ取得

ここには記録できません。

## がん総合データベースイメージ図



取り込むデータの規模感

入院患者情報

15KB

/DAY

※200Patients

外来患者情報

100KB

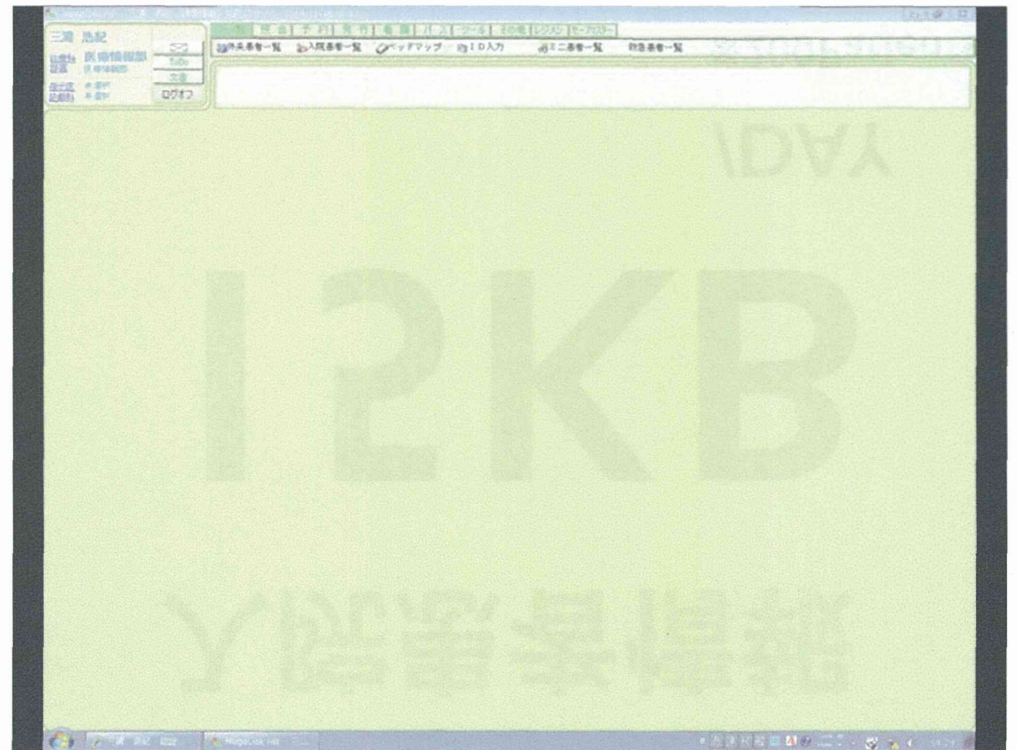
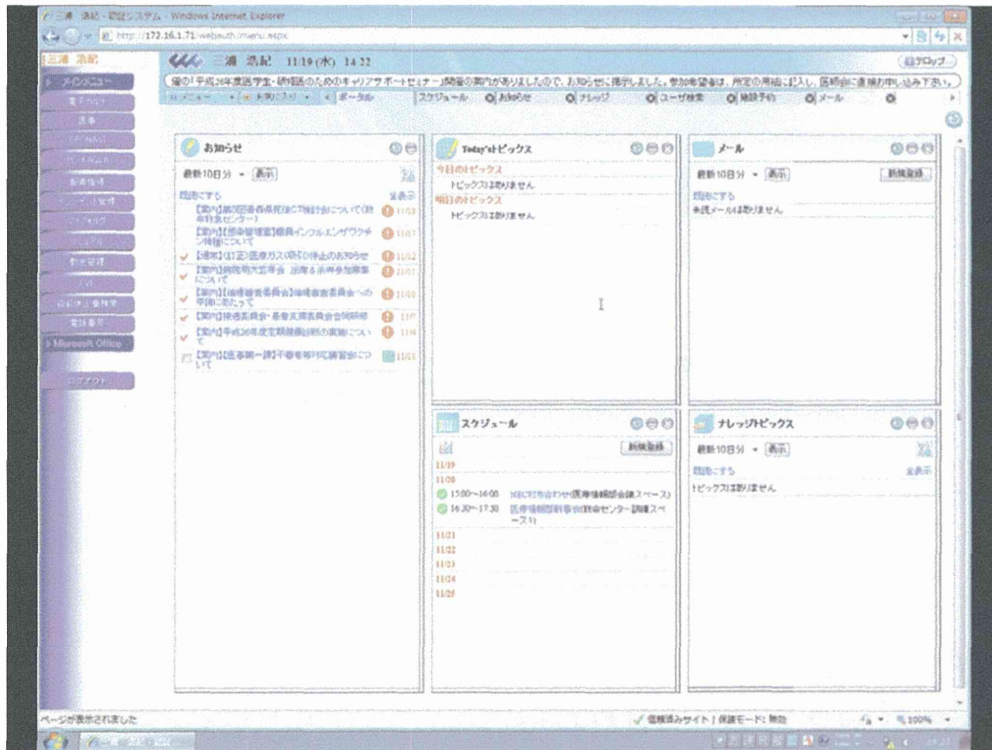
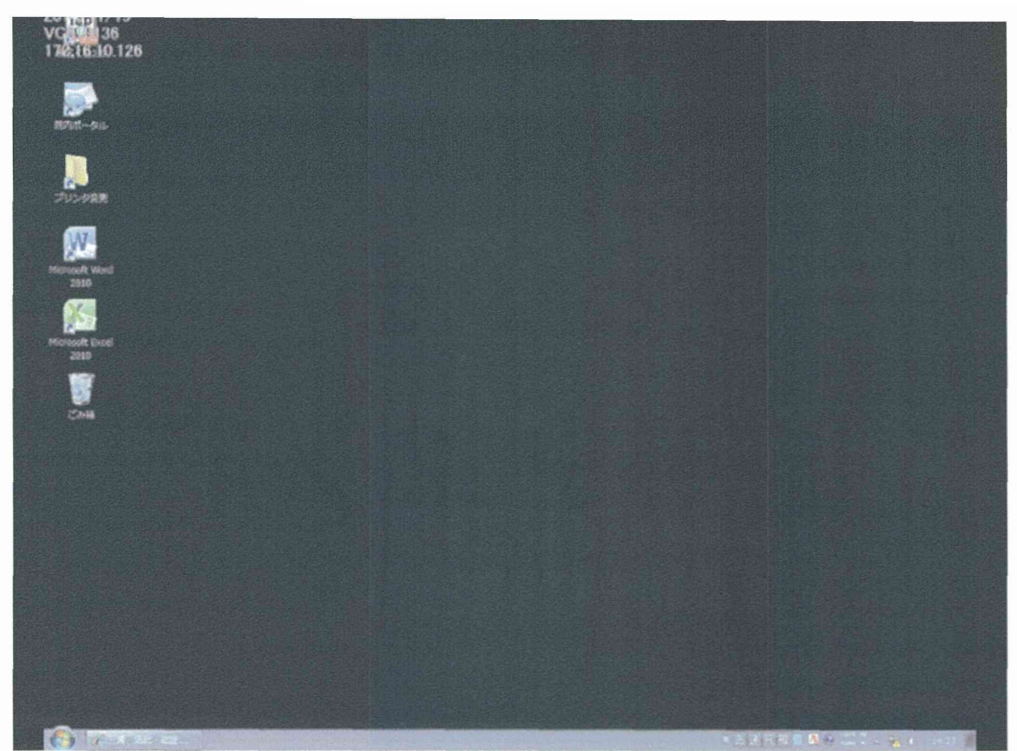
/DAY

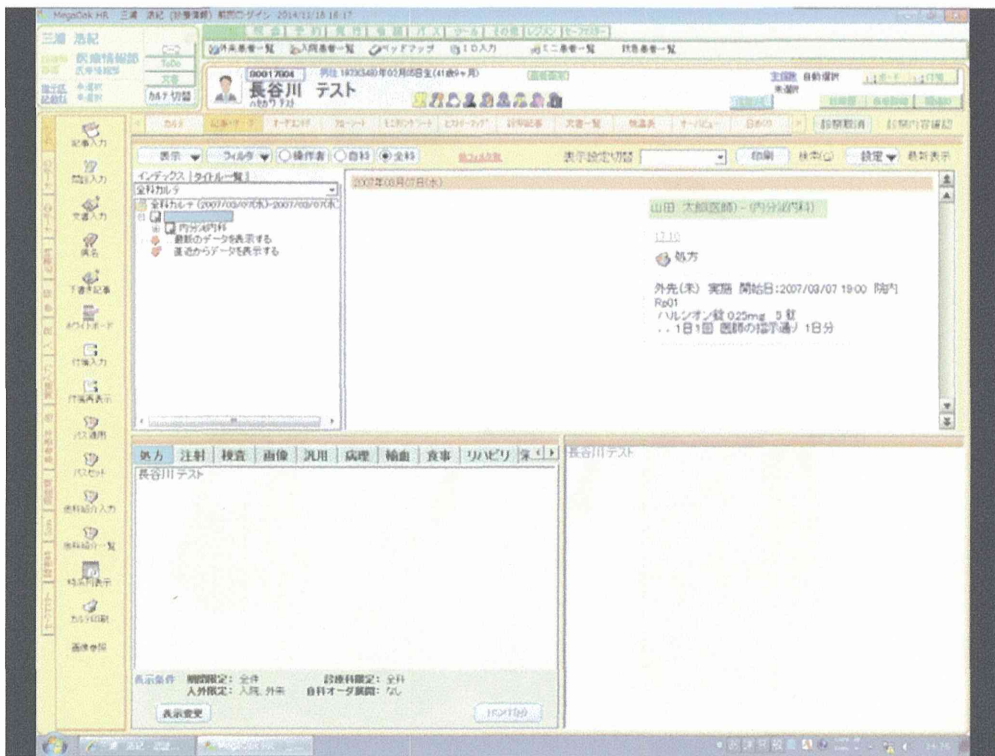
※1,200Patients

よくある質問

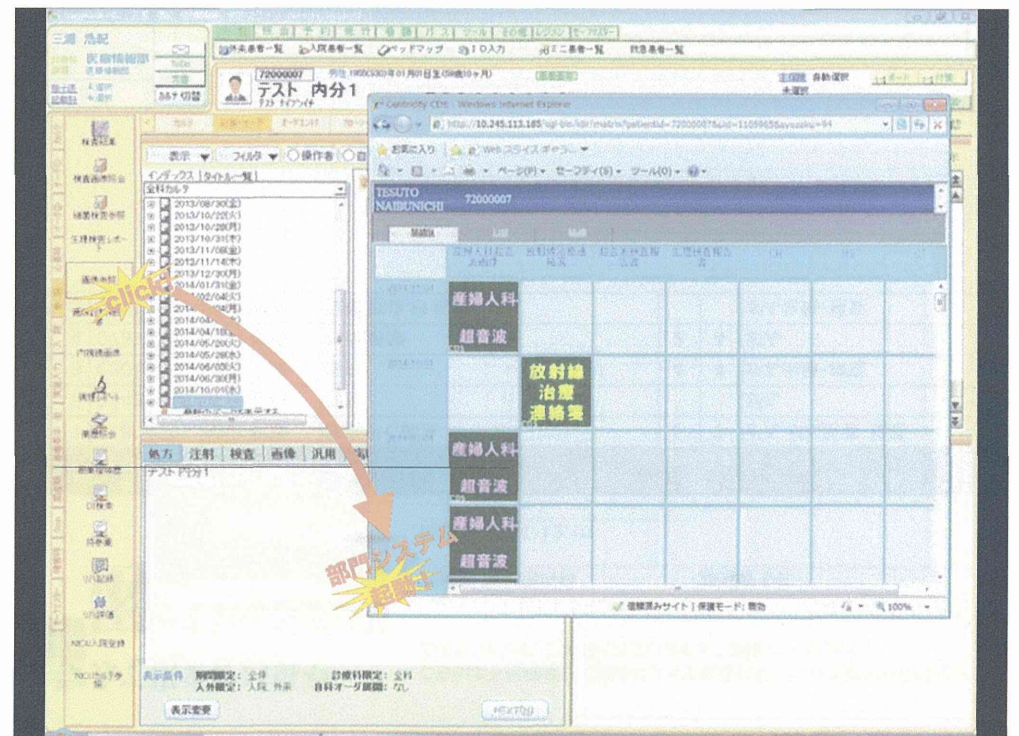
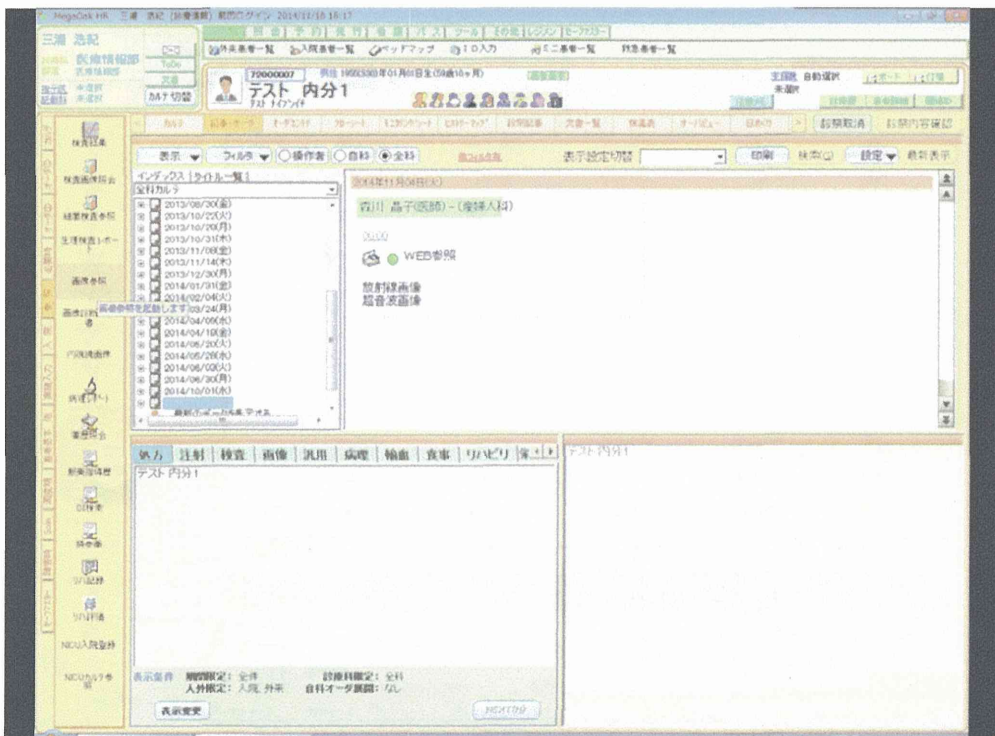
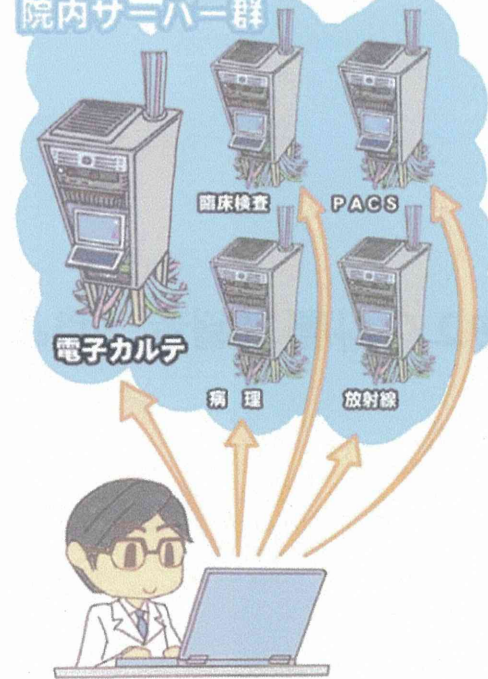
その3

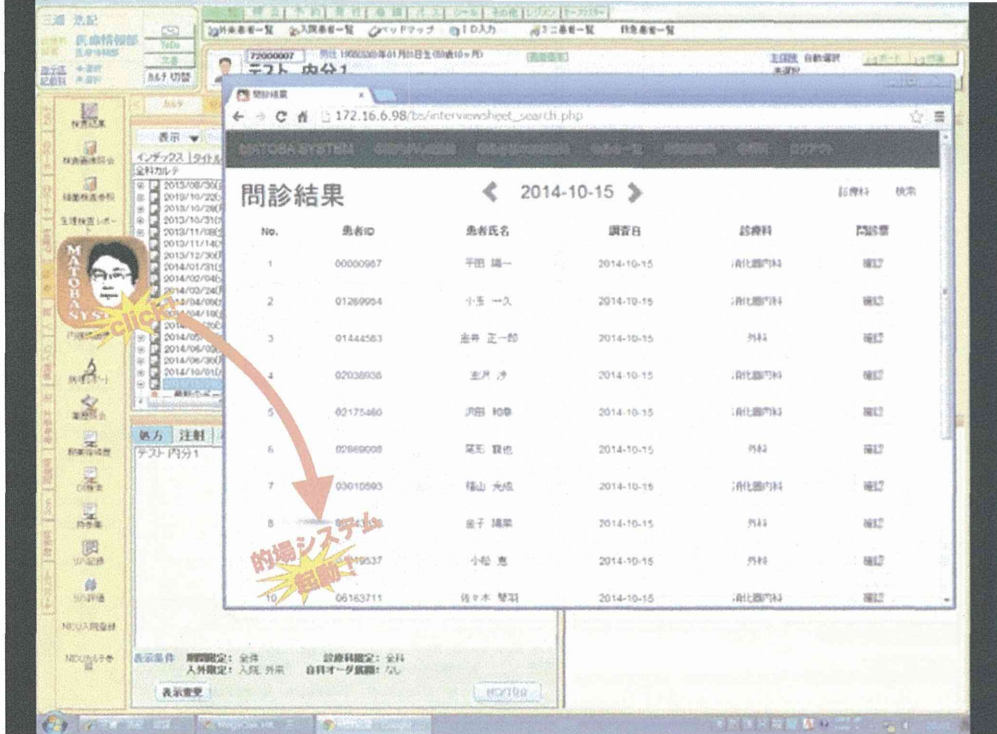
電子カルテからはどんな感じに見えるのか。





### 院内サーバー群





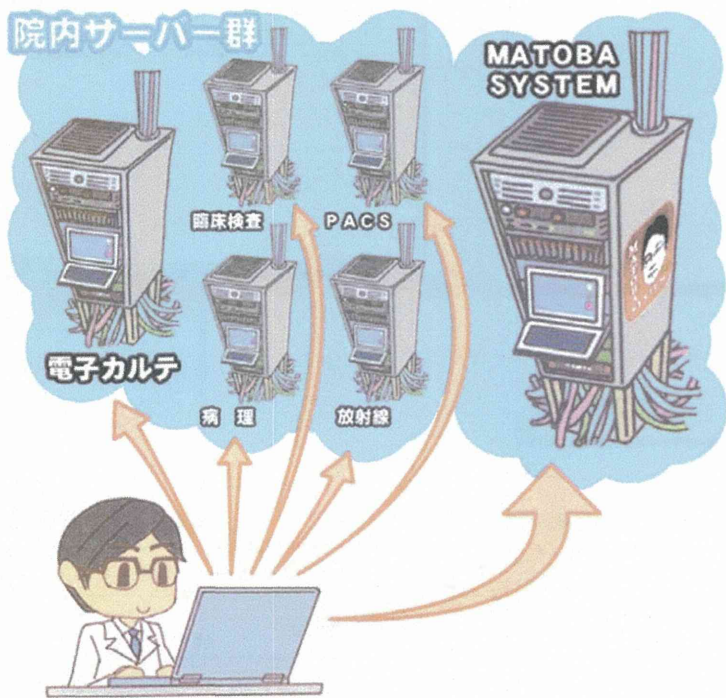
# 痛みで出来ない事や 困っている事がある 患者さんのリスト

こちらは下記調査日に痛みによって生活に何らかの支障がある患者さんのリストです。ご参照くださいますようお願いいたします。

診療科 消化器内科 該当者 5名

調査日 2014/12/01

No.	患者ID	患者氏名	困っていること	NRS		痛みの原因
				安静	体動	
1	01814397	嶋田 敏哉	座る,歩く,飲食	6	7	がん,がん治療・検査
2	02436748	柏原 昌也	飲食			がん
3	03010593	福山 光成	睡眠	4	4	がん治療・検査
4	07314457	安斉 俊郎	飲食,排泄	2	4	がん
5	08511617	横山 優衣	睡眠,飲食,排泄			がん治療・検査



では、実際に操作してみましょう。

## 実機体験

## ▶ PASSCODE

# 8111

### デモンストレーション用設定シート

No.	マシン名	ユーザID	パスワード	診療科	ユーザ名	担当患者ID	担当患者氏名
1	SPCS001	U001	pw001	消化器内科	ナス	00000001~00000006	患者001~患者006
2	SPCS002	U002	pw002	消化器内科	ペピーノ	00000007~00000012	患者007~患者012
3	SPCS003	U003	pw003	消化器内科	トマト	00000013~00000018	患者013~患者018
4	SPCS004	U004	pw004	消化器内科	タマリロ	00000019~00000024	患者019~患者024
5	SPCS005	U005	pw005	消化器内科	トウガラシ	00000025~00000030	患者025~患者030
6	SPCS006	U006	pw006	消化器内科	ミズナ	00000031~00000036	患者031~患者036
7	SPCS007	U007	pw007	消化器内科	ハバナロ	00000037~00000042	患者037~患者042
8	SPCS008	U008	pw008	消化器内科	ピーマン	00000043~00000048	患者043~患者048
9	SPCS009	U009	pw009	消化器内科	カボチャ	00000049~00000054	患者049~患者054
10	SPCS010	U010	pw010	消化器内科	ズッキーニ	00000055~00000060	患者055~患者060
11	SPCS011	U011	pw011	外科	キュウリ	00000061~00000066	患者061~患者066
12	SPCS012	U012	pw012	外科	ツノニガウリ	00000067~00000072	患者067~患者072
13	SPCS013	U013	pw013	外科	シロウリ	00000073~00000078	患者073~患者078
14	SPCS014	U014	pw014	外科	ツルレイシ	00000079~00000084	患者079~患者084
15	SPCS015	U015	pw015	外科	トウガン	00000085~00000090	患者085~患者090

No.	マシン名	ユーザID	パスワード	診療科	ユーザ名	担当患者ID	担当患者氏名
16	SPCS016	U016	pw016	外科	ヘチマ	00000091~00000096	患者091~患者096
17	SPCS017	U017	pw017	外科	ユウガオ	00000097~00000102	患者097~患者102
18	SPCS018	U018	pw018	外科	オクラ	00000103~00000108	患者103~患者108
19	SPCS019	U019	pw019	外科	カラシナ	00000109~00000114	患者109~患者114
20	SPCS020	U020	pw020	外科	セリ	00000115~00000120	患者115~患者120
21	SPCS021	U021	pw021	緩和医療科	ナメコ	00000121~00000126	患者121~患者126
22	SPCS022	U022	pw022	緩和医療科	タケノコ	00000127~00000132	患者127~患者132
23	SPCS023	U023	pw023	緩和医療科	ナガイモ	00000133~00000138	患者133~患者138
24	SPCS024	U024	pw024	緩和医療科	ジュンサイ	00000139~00000144	患者139~患者144
25	SPCS025	U025	pw025	緩和医療科	タラノメ	00000145~00000150	患者145~患者150
26	SPCS026	U026	pw026	緩和医療科	ミョウガ	00000151~00000156	患者151~患者156
27	SPCS027	U027	pw027	緩和医療科	オカヒジキ	00000157~00000162	患者157~患者162
28	SPCS028	U028	pw028	緩和医療科	ササギ	00000163~00000168	患者163~患者168
29	SPCS029	U029	pw029	緩和医療科	ソバモヤシ	00000169~00000174	患者169~患者174
30	SPCS030	U030	pw030	緩和医療科	ギンナン	00000175~00000180	患者175~患者180

[別紙様式 3]

がん対策推進総合研究（がん政策）推進事業  
がん医療従事者等研修会  
開 催 結 果 報 告 書

1、研修会開催者

所属・職名 厚生労働科学研究（がん政策研究）的場班 研究代表者  
氏名 的場 元弘

2、開催日時 平成 26 年 12 月 13 日（土） 14：00～18：00

3、開催場所

名称 青森県観光物産館アスパム  
所在地 青森県青森市

4、参加者数 42 名

5、研修テーマ 緩和ケアセンターを軸とした疼痛評価・疼痛治療地域統一プロジェクト

6、研修内容 概要は配布パンフレットをご参照ください。

講演 1（20 分）『緩和ケアセンターを軸とした疼痛治療の評価と改善のモデル』

青森県立中央病院 緩和医療科 部長 的場元弘

《内容》 がん患者の苦痛のスクリーニングの考え方、現場での具体的な実施方法、評価結果のフィードバックと治療への反映状況について、青森県立中央病院で行われている SPARCS（Special Project for Awareness and Relief of Cancer Symptoms）の経験や実例をもとに説明。その実施の重要性を説いた。

講演 2（20 分）『在宅患者の痛みやつらさの評価の実際と問題点』

一般社団法人 青森市医師会 理事 北島滋郎

《内容》 有床診療所を開きながら訪問診療・在宅患者の看取りを行う中で、また青森医療圏域内で実施されている緩和ケアや麻薬の使用と調整方法を検討した結果、地域での痛み評価スケールの統一が必要であると実感。症例をあげて説明した。

講演 3（20 分）『地域での痛みやつらさの情報共有の在り方』

あんさん訪問看護ステーション 所長（緩和ケア認定看護師） 沼倉昌洋

《内容》 的場班が行ったアンケート調査の結果から、痛みの評価スケールや医師とのコミュニケーション、薬局との情報共有等に関する青森地域の訪問看護ステーションの現状を紹介し、NRS の採用統一など今後への提案と課題を話した。

#### 講演 4 (20 分) 『薬局で得た苦痛の情報を活かす』

安田調剤薬局 緩和薬物療法認定薬剤師 岡野聡

《内容》 的場班が行った青森地域の調剤薬局を対象としたアンケート調査の結果を紹介し、薬局として重要なのは情報共有であると説明。薬剤師である自分と医師・訪問看護師・家族との情報のやり取りを、症例をあげて具体的に紹介した。

#### 講演 5 (20 分) 『つらさを聴き、受け止め、治療に反映できる評価の在り方を考える』

青森県立中央病院 緩和ケアチーム 緩和ケア認定看護師 山下慈

《内容》 患者が医療者に痛みを伝えることができない二つの理由について、実際の患者の話を DVD で紹介した。また、痛みからの解放のためにこれまで取り組んできた痛みの聞き取り・痛みの評価の統一の実際について、看護師の視点で話した。

#### 講演 6 (20 分) 『誰でも使える多機能携帯端末を用いた苦痛評価システムの使い方』

##### 実技演習 (55 分)

青森県立中央病院 医療情報部 三浦浩紀

《内容》 入院がん患者に行った痛みの問診の結果を入力しデータ集積する汎用型苦痛評価システムを紹介。システムのデータソースや基本構成について説明した。

実技演習では、まず、緩和ケア認定看護師である講師・山下慈氏が看護師役、研修会実行スタッフの一人が患者役になり、痛みの聞き取りの実演を行った。この実演の進行に合わせて、三浦氏がスマートデバイスの操作手順を説明。痛みの聞き取りとデバイスの操作、同時進行のデモンストレーションを行った。その後、参加者全員が医師（看護師）役と患者役の二人一組となって痛みの聞き取りを行い、実際にスマートデバイス (iPad) を操作し、システムを体験した。各講師は、ファシリテーターとして参加者のデバイス操作を補助した。

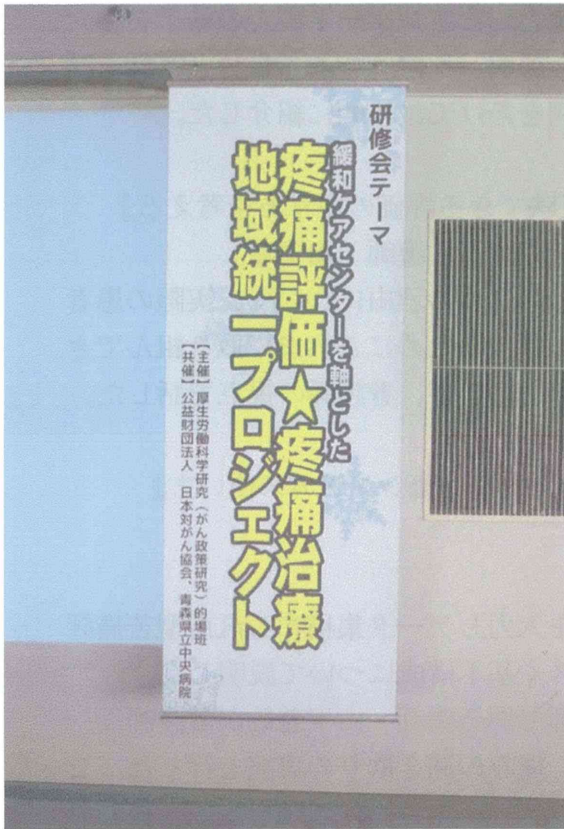
## 7、研修会の成果

本研修会は、青森市内の訪問診療医 1 名、訪問看護ステーションの緩和ケア認定看護師 1 名、薬剤師 1 名による、青森地域における痛みの評価および情報共有の現状についての 3 演に、的場班研究代表者と研究分担者 2 名による活動報告を加えた、講師 6 名による研修会とした。講演の後に設けた 55 分の実技演習時間を含め全体で約 4 時間（開催者挨拶、休憩時間等を含む）の開催時間であったが、各自の講演時間が 20 分と短く、聴講時間、演題数として適当であったという受講者意見が多数であった。

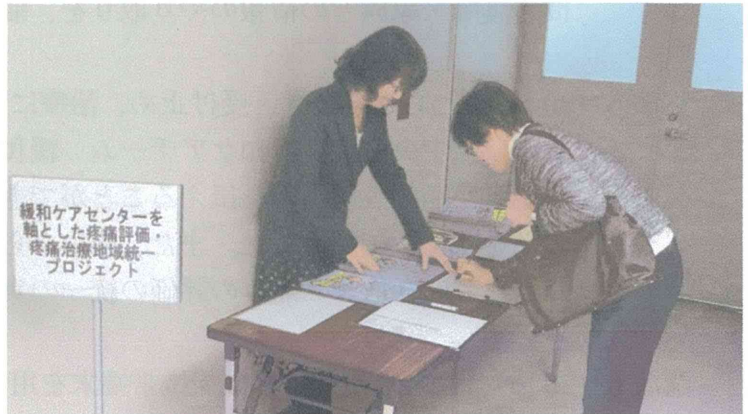
講演内容については、痛みの評価について学ぶことができて良かった、患者のためにも評価スケールの統一や地域連携が必要と思うなど、受講者から共感の声が聴かれた。また講演会はがん診療拠点病院、訪問診療医、訪問看護ステーション、調剤薬局が互いの情報共有の在り方を考える機会にもなり、今後取り組むべき課題が明らかになった。



会場 立て看板



受付の様子



会場



受講の様子



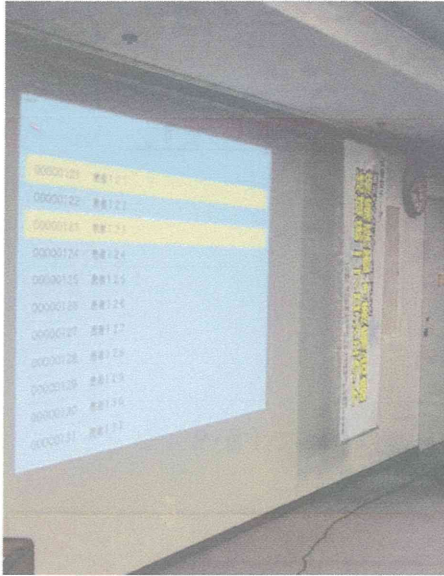
iPadを使った実技演習



## 痛みの聞き取りとデバイスの操作のデモンストレーション

右下：看護師役・山下講師と患者役・スタッフが「痛みの聞き取り」を実演し、その結果を iPad に入力する。

左：「痛みの聞き取り」の進行に合わせ、iPad の操作手順を説明する三浦講師。



## 「痛みの聞き取り」と iPad 入力を体験

痛みの聞き取りとデバイスの操作のデモンストレーション後、再び三浦講師が iPad 操作を説明。参加者全員が医師（看護師）役と患者役の二人一組となって、痛みの聞き取りをしながら iPad 操作を体験。

## iPad 入力の補助

「痛みの聞き取り」の項目が一つ進む毎に iPad 操作を詳しく説明。講師やスタッフが、操作が進まない参加者のそばに行って iPad 操作の補助をした。



## がん患者の症状評価におけるチーム医療に関するアンケート調査 【訪問看護ステーション版】

1. がん患者の痛みや痛み以外の身体症状をどのように評価しているかについてお伺いします。  
あてはまるものに○をして下さい

1) がん患者の痛みは、評価していますか？

- ① 評価していない
- ② 評価するかしないか看護師の判断に任せている
- ③ 自施設内で統一した痛みのスケールを使用して評価している

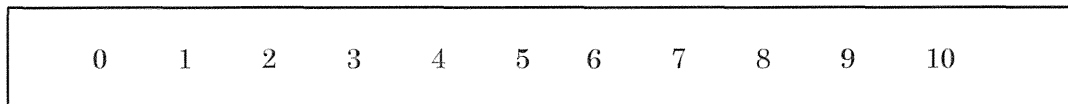
2) 評価している場合、下記から最も多くの患者が使用しているスケールはどれですか？

① VAS



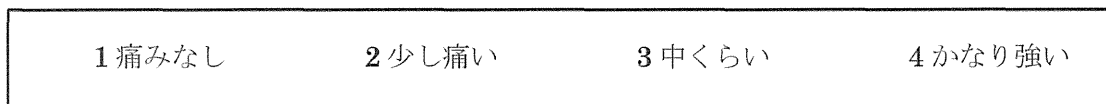
(視覚的評価スケール：10cmの直線を引き、左端の位置を「全く痛みがない状態」、右端を「想像しうる最悪の痛み」とし、患者の痛みの程度を表す位置をところに印を付けてもらう方法)

② NRS



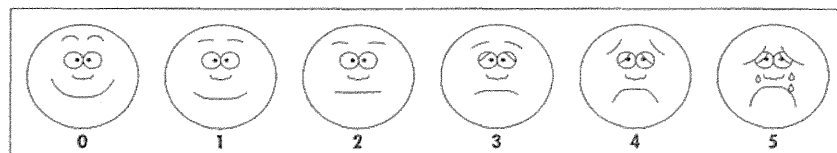
(数値評価スコア：痛みを0から10の11段階に分けて表し、全く痛みがない状態を「0」、自分が考え想像しうる最悪の痛みを「10」として、今感じている痛みの点数を聞く方法)

③ VRS



(言葉での評価スケール：3段階から5段階で痛みの強さを表す言葉を数字に置き換える方法)

④ FPS



(表情評価スケール：痛みの程度を6段階の表情で表し痛みを推し測る方法)

⑤ 「あり・なし・±」で評価している

⑥ その他 ( )

3) 痛み以外の身体症状は、どのように評価していますか。

- ① 評価していない
- ② 評価するかしないか看護師の判断に任せている
- ③ 自施設内で統一したスケールを使用して評価している

4) 評価している場合、下の表にある症状で、最も多くの患者が使用しているスケールはどれですか？ 該当する欄に○を書いて下さい。

	呼吸困難感	だるさ	吐き気	倦怠感	食欲不振	気持ちのつらさ
NRS						
FPS						
あり・なし・±						
その他 ( )						

2. 痛みや痛み以外の身体症状を評価するタイミングについてお伺いします。

- ① 週に1回・月に1回など、定期的に評価している
- ② 訪問する毎に評価している
- ③ 痛みの日記などを利用して継続的に評価している
- ④ その他 ( )

3. 医療従事者の教育についてお伺いします。(複数回答可)

- ① 特に行っていない
- ② 段階別の教育プログラムに基づいて計画している
- ③ 定期的に勉強会（症例検討を含む）を開催している
- ④ 必要時に勉強会（症例検討を含む）を開催している
- ⑤ eラーニング
- ⑥ 看護協会など自施設外の研修会に参加している
- ⑦ その他 ( )

4. 緩和ケア研修会は、実際の訪問看護に役立っていると思いますか？

- ① 全く思わない
- ② あまり思わない
- ③ 少し思う
- ④ とてもそう思う

5. 訪問看護において、どのような教育が必要だと思えますか？

---



---



---



---



---



- 3) 地域の他の訪問看護師がどのように情報共有しているか、知っていますか？  
①知っている                      ②知らない
- 4) 地域の他の薬局がどのように情報共有しているか、知っていますか？  
①知っている                      ②知らない
- 5) 地域の他の診療医がどのように情報共有しているか、知っていますか？  
①知っている                      ②知らない
- 6) 地域内での身体症状の情報は統一されていると思いますか？  
① 全く思わない  
② あまり思わない  
③ 少し思う  
④ とてもそう思う

7. 青森県立中央病院にどんなサポートを求めますか？

---

---

---

---

---

8. 青森県立中央病院から紹介される患者、地域連携について要望があれば教えてください。

【入院患者における地域連携】

---

---

---

---

---

【外来患者における地域連携】

---

---

---

---

---

ご協力ありがとうございました

## がん患者の症状評価におけるチーム医療に関するアンケート調査 【薬局版】

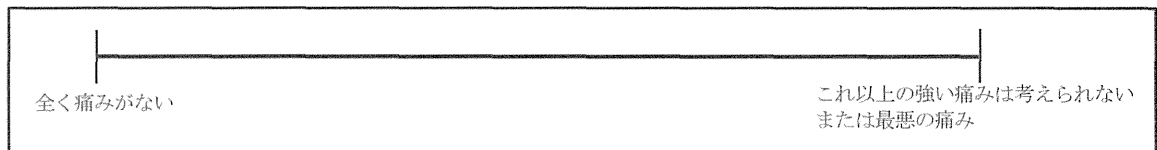
1. がん患者の痛みや痛み以外の身体症状をどのように評価しているかについてお伺いします。  
あてはまるものに○をして下さい

1) がん患者の痛みは、評価していますか？

- ① 評価していない
- ② 評価するかしないか薬剤師の判断に任せている
- ③ 自施設内で統一した痛みのスケールを使用して評価している

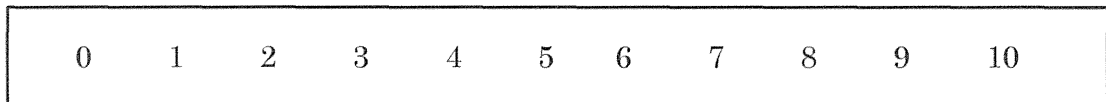
2) 評価している場合、下記から最も多くの患者が使用しているスケールはどれですか？

① VAS



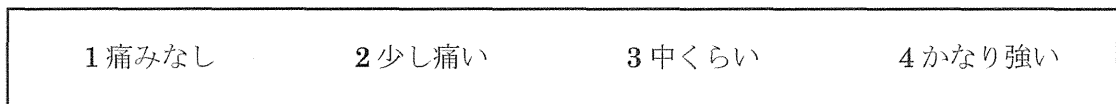
(視覚的評価スケール：10cmの直線を引き、左端の位置を「全く痛みがない状態」、右端を「想像しうる最悪の痛み」とし、患者の痛みの程度を表す位置をところに印を付けてもらう方法)

② NRS



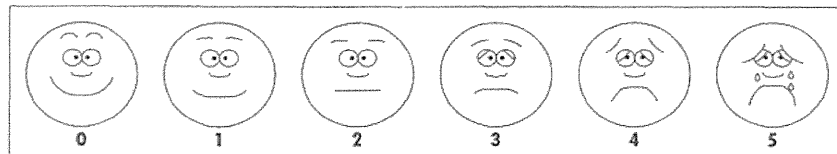
(数値評価スコア：痛みを0から10の11段階に分けて表し、全く痛みがない状態を「0」、自分が考え想像しうる最悪の痛みを「10」として、今感じている痛みの点数を聞く方法)

③ VRS



(言葉での評価スケール：3段階から5段階で痛みの強さを表す言葉を数字に置き換える方法)

④ FPS



(表情評価スケール：痛みの程度を6段階の表情で表し痛みを推し測る方法)

- ⑤ 「あり・なし・±」で評価している
- ⑥ その他 ( )

3) 痛み以外の身体症状は、どのように評価していますか。

- ① 評価していない
- ② 評価するかしないか薬剤師の判断に任せている
- ③ 自施設内で統一したスケールを使用して評価している

4) 評価している場合、下の表にある症状で、最も多くの患者が使用しているスケールはどれですか？ 該当する欄に○を書いて下さい。

	呼吸困難感	だるさ	吐き気	倦怠感	食欲不振	気持ちの つらさ
NRS						
FPS						
あり・なし・±						
その他 ( )						

2. 痛みや痛み以外の身体症状を評価するタイミングについてお伺いします。

- ① 週に1回・月に1回など、定期的に評価している
- ② 訪問する毎に評価している
- ③ 痛みの日記などを利用して継続的に評価している
- ④ その他 ( )

3. 医療従事者の教育についてお伺いします。(複数回答可)

- ① 特に行っていない
- ② 段階別の教育プログラムに基づいて計画している
- ③ 定期的に勉強会（症例検討を含む）を開催している
- ④ 必要時に勉強会（症例検討を含む）を開催している
- ⑤ eラーニング
- ⑥ 薬剤師会など自施設外の研修会に参加している
- ⑦ その他 ( )

4. 緩和ケア研修会は、実際の調剤管理に役立っていると思いますか？

- ① 全く思わない
- ② あまり思わない
- ③ 少し思う
- ④ とてもそう思う

5. 薬剤管理において、どのような教育が必要だと思いますか？

---



---



---



---



---



6. 地域におけるチーム医療についてお伺いします。

1) 訪問診療医と自施設間について

- ① 患者さんの症状について、訪問診療医とどのように報告していますか？  
現在実際にどのような内容を報告しているか、報告時に使用している資料などを添付して下さい。なお、個人名が特定されないよう情報は必ず削除するようお願いします。

添付資料名【】

- ② 医師の受け止めや対応にギャップを感じることはありますか？  
A) ある                      B) ない

※ある場合はどのような時に感じるかご記入下さい。

---

---

---

- ③ 薬剤師の報告したことが、在宅医療における治療に反映されていますか？  
A) 反映されている  
B) 反映されていることもあるが、あまり多くはない  
C) 反映されていない

2) 訪問看護ステーションと自施設間について

- ① 患者さんの身体症状について、訪問看護ステーションとどのような形で情報共有していますか？（複数回答可）  
A) 訪問看護師が薬局へ出向いたとき口頭で  
B) 定期的  
C) 処方ごと  
D) ファックス  
E) 電話  
F) メール  
G) 医師への報告書を転用  
H) その他（）  
I) 特に情報共有していない

- ② 現在実際にどのような内容を報告しているか、報告時に使用している資料などを添付して下さい。なお、個人名が特定されないよう情報は必ず削除するようお願いします。

添付資料名【】

- ③訪問看護ステーションと自施設間で評価が違うことはありますか？  
A) ある                      B) ない

※ある場合はどのような時に感じるかご記入下さい。

---

---

---

- 3) 地域の他の薬局がどのように情報共有しているか、知っていますか？  
①知っている                      ②知らない
  
- 4) 地域の他の訪問看護ステーションがどのように情報共有しているか、知っていますか？  
①知っている                      ②知らない
  
- 5) 地域の他の診療医がどのように情報共有しているか、知っていますか？  
①知っている                      ②知らない
  
- 6) 地域内での身体症状の情報は統一されていると思いますか？  
① 全く思わない  
② あまり思わない  
③ 少し思う  
④ とてもそう思う

7. 青森県立中央病院にどんなサポートを求めますか？

---

---

---

---

---

8. 青森県立中央病院から紹介される患者、地域連携について要望があれば教えてください。

【入院患者における地域連携】

---

---

---

---

---

【外来患者における地域連携】

---

---

---

---

---

ご協力ありがとうございました

# 第2回 沖縄県除痛率改善研修会

## 痛みの スクリーニングと その評価と対応

### 対象

- 病院長・副病院長
- 医師
- 看護管理に携わる方
- 看護師
- 病院システムに関わる方
- 薬剤師
- その他関心のある医療者

### プログラム

- 12:00 開会挨拶  
笹良 剛史先生(沖縄県がん診療連携協議会緩和ケア部会長・友愛会南部病院 診療部長)
- 12:05 〈座長〉 琉球大学医学部附属病院緩和ケア副センター長(麻醉科准教授) 中村 清哉先生  
〈講師〉 的場 元弘先生(青森県立中央病院 緩和医療科 部長)  
「声なき痛みのスクリーニング」
- 12:35 〈座長〉 琉球大学医学部附属病院 看護部長 下地 孝子先生  
〈講師〉 山下 慈先生(青森県立中央病院 緩和ケアチーム専従看護師)  
「痛みを聴き、受け止め、痛みからの解放のために取り組んでいること」  
～入院・外来におけるスクリーニングと緩和ケアチームとの連携～
- 13:05 -----休憩(10分)-----
- 13:15 〈座長〉 友愛会豊見城中央病院 情報システム課主任 高見 洋二先生  
〈講師〉 三浦 浩紀先生(青森県立中央病院 医療情報部主査)  
「がんの痛みの評価と治療のためのシステム(汎用型)の開発」
- 13:45 〈座長〉 沖縄県立中部病院 乳腺外科部長 上田 真先生  
〈講師〉 吉本 鉄介先生(社会保険中京病院 JCHO緩和支援治療科部長)  
「がんの痛みで苦しむ患者さんを減らすために何ができるか」  
～現場からの知恵と工夫の紹介～
- 14:15 -----休憩(5分)-----
- 14:20 パネルディスカッション  
〈座長〉 笹良 剛史先生  
パネリスト 的場 元弘先生/山下 慈先生/三浦 浩紀先生/吉本 鉄介先生
- 15:00 閉会挨拶  
増田 昌人(琉球大学医学部附属病院がんセンター長・診療教授)

# 12/6<sup>土</sup>

日時：平成26年  
開場11:30～ 開演12:00～15:00

場所：沖縄県医師会館(3階ホール)

主催：琉球大学医学部附属病院がんセンター



参加費無料  
申込不要

※この研修会は、公益財団法人  
笹川記念保健協力財団から  
助成を受けています。

お問合せ

琉球大学医学部附属病院 がんセンター

E-mail [mail@ryukyucc.jp](mailto:mail@ryukyucc.jp)

TEL:098-895-1374 FAX:098-895-1497

ホームページ <http://www.ryukyucc.jp>

